

## 「県政タウンミーティング」会議録

テーマ 「知事と語ろう。10年、20年後の長野県」

日 時 平成29年9月10日（日） 9時から12時まで

場 所 Social Hub Space Knower(s)（ノウアース）（松本市）

### 目 次

- |                |       |      |
|----------------|-------|------|
| 1 知事あいさつ       | ..... | P 2  |
| 2 グループ発表       | ..... | P 2  |
| 3 知事とのディスカッション | ..... | P 9  |
| 4 知事総括コメント     | ..... | P 23 |

### 【参加者 34人】

公募による一般県民

長野県知事 阿部守一

進行役 瀧内 貫 氏：クラウドット株式会社 Proposer & Director

9時から10時まではグループごとに以下の次期総合5か年計画の政策の柱から一つ選んで意見交換を行っていただき、10時から知事とのディスカッションを行いました。

- 創造的な学びの推進
- 産業・経済の持続的発展
- 健康と安全の確保
- 新しいライフスタイルの実現
- 地域力（・自治力）の向上

※10時までの各グループの意見交換の内容は省略してあります。

## 1 知事あいさつ

【長野県知事 阿部守一】

皆さん、こんにちは。長野県知事をしております阿部守一です。

今日は、皆さんと一緒にこれからの長野県のあり方を考えたいと思っています。

今日は瀧内さんに進行役をお受けいただいて、大変ありがとうございます。そして、またこのノウアーズも活用させていただいています。

これからの社会というのは行政だけが何かするとか、県民の皆さんだけが何かするというのではなくて、行政も民間もみんなが一緒になって語り合っ、一緒になって取り組んでいくという形が私は一番重要だと思っています。私も県庁の組織の中ばかりで、場所も県庁の会議室だけでやっているとアイデアが出てこないと思っていますので、ぜひちょっと、今日はこういういい雰囲気のところを使わせていただいていますので、ぜひ皆さん同士、つながるきっかけにもしていただければなというふうに思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## 2 グループ発表

【進行役 瀧内 貫 氏】

では、さっそくAグループからお願いします。

【Aグループ】

よろしくお願いします。

Aグループでは、『創造的な学びの推進』のテーマに沿って話を進めて、まず教育課題というところで探求的、また主体的な教育ということについて話が出てきて、地域の人が集まって学校のようなことをしていることなどが出ました。

また、インターネットとのかかわりというところで、ハッカソンなどの活動に学生をもっと呼び込んでその地域の中で学んでいくということが出て、また、そういった活動をしているということの情報発信というところで、プレゼン大会を開くとかそういったことが出て、またそういう情報発信をするのに場づくりが大切であるということが出て、地域の人たちが集まれるたまり場のようなどころができたらいいなということなどが出ました。結論としては、学びの場や仕組みの強化ということです。以上です。

【進行役 瀧内 貫 氏】

では順番に。Bグループお願いします。

【Bグループ】

Bグループでは『産業・経済の持続的発展』という、その方向性についてみんなで話し合いました。まず課題として、何でこれが発展しないのかということ、まず東京へ人、物、富の集中があるということで、こういったことがまず根本的にあるといったことを

背景として、では今、経済を発展させるために、まず長野には、今、何があるのかという話を皆さんで話を進めました。

長野県にはいっぱいいいものがあるよという、もうこれは多分、どんな会とかでも話に出ると思うんですが、こういういっぱいいいものがあると。信州の自然だったりワインとか食ですね。野菜が新鮮だとか温泉だとか、では何でこういったいいものがあるのに経済が発展しないのかということについてみんなで話しました。

そういったときに、こういった物をつくることはみんなできるけれども、それをつなぐ、情報発信する、そういう人たちが信州にはいないんじゃないかという、東京とかそういったところには得意な人たちがいっぱいいるけれども、信州にはこういった情報発信をする人がいないんじゃないかという話がグループの中で出てきました。

ではこういった課題がある上でどうしたらいいのか、こういったシステムを県の人たちにつくってもらったほうがいいのかというところで、この情報発信できる人たちといっしょのものをつくる人たちをつなぐシステム、システムですね。県がそういった人たちを紹介するシステムがあってもいいだろうし、そういった人材の人たちをいっぱい呼ぶということもいいだろうという、そういったことをぜひ進めてほしいなというような意見がいっぱい出ました。

例えばそれで、仮にこれとこれがうまくつながって経済がうまく発信もできて、産業が発展してきましたと、そういったときに何が起こるかという、こういった仕組みができて、販売ができて人も集まっているのに、肝心のインフラが整備されないんじゃないかという問題がちょっとポンと出てきました。特に今、東北信のほうには新幹線が通っていて、南信のほうにはこれからリニアとかも通ると思うんですが、ちょっと中信地方のほうには交通整備のインフラがちょっとないんじゃないかなというような話が来まして、インフラの整備ですね。こういったことも必要なんじゃないかという話が出ました。では、それを踏まえ上で情報発信のシステム、こういうことができたらいいなという話をちょっとグループの中で話し合いました、思い切った提案を僕たちのグループで考えました。

まず一つは、情報発信をするために何をするかですね。小学生、小さい人たちですよ、教育のほうから入って行くんです。教育のほうにもなってしまうんですけども、小学生に情報発信を、要するにSNSとかそういったものを活用できるような特別プログラムみたいなものをつくりまして、若いうちからそういったことを小学生の方に教えて、将来、そのまま信州の情報を発信してもらってもいいし、おじいちゃん、おばあちゃんとかに授業で習ったことを教えて、こういうふうにやれば、世界中のみんなに情報が発信できるんだよみたいな、そういったことを早いうちから進めてもらって、こういった経済を発展させる未来の人たちを育てる環境を長野県につくろうということがまず一つです。教育のほうになってしまうんですけども、そういったことをぜひ県のほうにやってほしいなと思います。

あともう一つは思い切った計画なんですけども、インフラの整備ですね。ここは、僕自身が中信地方に住んでいるものですから松本空港の国際化、これを5か年計画で、滑走路をまずは2,500mまで延ばしていただいて国際化をしていただいて、こういった物が売れる環境になったときに人を受け入れる体制をあわせてつくってほしいという、それができたときに初めて信州というものが、世界的に見ても持続発展できるようなモデルに

なるんじゃないかと思ひまして、Bグループで考えて発表いたしました。ぜひこの二本の柱をお願いしたいと思います。

【進行役 瀧内 貫 氏】

続きまして、Cグループお願いします。

【Cグループ】

Cグループの発表をさせていただきます。最初、私たちのグループで、このテーマで何を話そうかということで一票ずつ票を入れたところ、5人全員が違うところを指したので、まずいろいろなことを話してから進めよう。

いろいろ話していくうちに、地域のことについていろいろ問題意識を持った方が結構多いということになりまして、『地域の元気』がこれからの、これはずっと昔から言われていますけれども、そもそも鍵だということでもんどもん意見を出し合いました。問題としては地域に興味がないとか、その地域にある人、物を生かしていないとか、そもそも年寄りしかいないのにどうするんだということもたくさん出てきました。いわゆるサラリーマンで中高年なんだけれども、地域に1回も出てきたことがないとかという人を、どうやって地域に誘い入れるんだと、実際、それができるのかというところがあります。

なんでかということ考えたときに、畑で忙しいとか、面倒くさいとか、大変そうだとか、私なんかが出て行ってどうするんだみたいなのがともあると思います。そういうところで、対策をいろいろ話していくうちに、次のイベントとかお祭りでこういう人材が必要なので集まってほしいというように目的を明確にしたところ、結構、人が集まったという話も出ました。

それから、人が根本的に少ない地域に地域だけで課題を解決しようなんて無理なので、ある程度、いろいろな行政だとかいろいろな団体の力をお借りして、外から人を入れるという仕組みをつくってみるのもいいのかなということ。

それからもう一つ、大きな流れとしては、地域の適材適所という人材を配置するにはどうしたらいいのかなということもありまして、いろいろ話していくうちに、お年寄りが元気だと。暇なお年寄りもいっぱいいると。暇なお年寄りは大体、農家の方は別として何かをやりたいので、今、シニア大学が人気だとか、そういうこともありますので、そういう高齢者の方の活用が、これは行政のほうでもいろいろ案は出ているかと思ひますけれども、地域において新しい専門委員、これは今ある何とか委員とかとは別に、地域を元気にするとか、地域を組織化するためのプロフェッショナルとして任命する高齢者の専門委員みたいなものをつくったら、もちろんちゃんと給与というか、お金もいただくということで新しい組織をつくったらどうなんだろうかという意見も出ました。

あと、そうですね。あと子どもの問題も出ましたけれども、地域に人がいないのは、子どもの時代から地域にいろいろ参加できなくて、その地域に魅力を感じなくて、子どもが離れていく。さっきも言われましたけれども、圧倒的に関東、東京一円に離れていくということを見ると、そういうさっきの委員も含めて、地域に子どもが参加できる新しいイベントとか組織みたいなものがあるといいのかな。

そんな話を時間いっぱいしていました。

【進行役 瀧内 貫 氏】

ありがとうございました。ではDグループ、お願いします。

【Dグループ】

Dグループです。

まずテーマなんですけど、何しましようかという話の中で、このグループ、シニア大学に通っている方が2人もいらっしゃいまして、学びというところが関心が高いだろうということで、『創造的な学びの推進』、学びをテーマにさせていただきました。

まず付箋紙のほうにいっぱい書きまして、それを皆さん一人ずつ発表する中でまとめていったんですが、なかなかまとまらなかったんですけども、瀧内さんからアドバイスいただきまして、仕組みと場と題材という3つのテーマに分けて、それぞれ分離を試してみました。その中で、私たちのグループというのは、それぞれの仕組みの中で特徴的なものがいくつか挙がりまして、それについて説明をしていきたいと思います。

まず仕組みなんですけれども、まずこの学びということに対して、やはりこれからは多様性が必要だろうというところが挙がりまして。

その多様性というのは今の画一的な教育、その6・3・3というんですか、そういう形で年度で固まっているという形ではなくて、もっと、いろいろな年代の方が学べる仕組みというところが必要なんじゃないかなということです。

また、その地域をもっと活用した学びという場があってもいいんじゃないかなという気がします。以前、長野県は教育県という話もありましたけれども、そういった伝統というところが生かせる部分もあるんじゃないかなと思います。

あと、ここで教えるということと学ぶということに対して、人は教えることで最もよく学ぶという言葉もあります。それぞれ一方的に教える、学ぶということではなくて、教える側も教えることによって学ぶ。学ぶ側のほうについても自主性を持たせるとか、そんな形の仕組みが必要なんじゃないかなということです。

次に場のところなんですけど、場につきましては、先ほど公民館活動という話がBグループででしょうかありましたけれども、長野県、少子高齢化というところはどうしても避けがたいところがあります。高齢者の方が多くなってきている。で、多くのノウハウを持っている。でも、それが子どもたちに伝わっていないのが現実じゃないかという気がします。

例えば私の親父は長野県らしい蜂の子とりとか、あとはきのことりとかそういうことをやっていたんですが、残念ながら私の代で途絶えてしましまして、また野沢菜漬けとかといったものもいっぱいあるかと思うんですが、聞いてみますと買ってくる人が多くて、親から子どもに、お母さんから子どもに伝わっている部分が断絶しているんじゃないかなという感じがしています。そういったところがありますので、高齢者と子どもたちの間をつなぐ仕組みがもっとあるべきじゃないかなということを思います。それぞれ、今、分断されていて核家族化している中で、親から子に伝わる部分、長野県がずっと持っていた伝統が伝わる部分が、今まで家庭が中心だったんですけども、それがなくなってきている、それを公的な力でもっと伝承させていく場が必要だろうというところがある。

その観点からして、具体的な話がこの短い時間ではできなかった部分があるんですけど

れども、その一つとしては公民館というところがあって、そういったところでもっと活用すべきだと。長野県は公民館活動が盛んだという話があったんですが、この特徴をもっと具体的に生かしていくべきだと。公民館で学びの場というところを提供して、さらに突き詰めていくというところをもっと必要になってくるんじゃないかなと思います。

それで先ほどのグループの中で若い方のグループ、特にITを活用しますというところがあって、ああこれは斬新だなと思いました。ただ、それもそれは当然やっていかなければいけなくて、それは必須です。その中でも公民館という場、地域のつながり、face-to-face、その場がどうしても必要なんじゃないかなという気がします。

高齢者の方にとってみれば、子どもたちと触れ合うことによっていろいろな話を聞くわけですね。そうすると、高齢者の方も自分が認められているというその達成感、幸せ感、人の幸せというのはどちらかという、より人とのつながりというところが非常に重要じゃないかなと思っています。

そういった場でITだけじゃなくて、ITも必要です。それも広報活動としてなくてはいけないんですが、それとあわせて人と会わせて話をするという場がどうしても必要、それは公民館というところ、またもっとほかに学校があるかと思いますが、そういうところも活用しながらやっていくべきじゃないかなと思います。

それで題材に関しましては、過去と現在と未来という中で、学びの題材として過去の歴史を学ぶ。野麦峠という話がありました。こういう長野県の歴史というところを学ぶところも必要だろうと。

また、現在というところでは自然エネルギーの地産地消というところ、特に林業という話がちょっと出ていましたけれども、林業に関して、もっと長野県の林業を活性化する、そういったところを学ぶ場が必要だろうと。またミツバチという話もありました。これも地域に密着した話かと思うんですが、こういったことが必要だなと思います。

中には新婚旅行は宇宙に行こうという、こういうおもしろい話も出てきましたけれども、そういった現在と過去と未来を往復する中で学びというところをより進めていきたい。その中で長野県らしい伝統も含めて、また自然に親しむというところも含めて学んでいくことが必要じゃないかなというところで時間が終わってしまったというところで。

もっと具体的な詳しい内容について話をしたかったところもあるんですが、ちょっと時間的に厳しかったなというところなんですが、一つ、ヒントが得られたと思いますし、私たちもこれから、こういったことをこの場を通じて、感じたことをまた自分なりに消化して、自分なりにできることをしていきたいなということを思っています。以上です。

【進行役 瀧内 貫 氏】

最後、Eグループ、お願いします。

【Eグループ】

それでは、我々Eグループの発表をさせていただきます。我々も最初、全員で何を議題にするかを話し合ったところで、皆で熱い思いがあったのか、全員がやっぱり違うことを主軸に置きたいという話だったんですが、話を全員で聞いていくうちに、ライフスタイルに沿ったことをみんな考えていたということなので、『新しいライフスタイルの実

現』を念頭において考えさせていただきました。

大体、こうやって県内の問題というものを出すと、人口減少だったり、子育ての問題、雇用の問題というものが最初に持ち上がるんですが、その主軸にあるのは、やっぱり、結婚という問題が挙がるんじゃないかというお話がありました。例えば子育てや人口の増減についても、結婚の有無で全然、ある内容が違いますし、そもそも結婚できないのはどうしてかというやはり雇用問題、例えば自分たちのような若い者は、最初のうちはやっぱり非正規で雇われるといったことが多いので、そういった雇用状態を変えていき、やがては結婚へといき、そこから派生して暮らしや子育てといった面に移れないかと考えました。

出た提案として結婚が問題で、そもそも本人たちに結婚の意思がある、なし、そういったところからどうにかできないか。また出会いの場があるか、ないかといった面から、このように出会いの機会や結婚の機会が減っているのが問題とされました。結婚の機会が減ることによって、人口の減につながったりもするのではないかという話になりました。

そういった出会いの機会を設けるためにはいわゆる働き世代、20代から30代が仕事、職場以外で人々と出会う場所の創設ができないかということで、大学や教育機関が協力して生涯学習を学ぶ場や、そういった何か出会いの場を創設してもらえないかという話になりました。

子育ての面においても、例えば結婚しない理由として子育てができるか不安、働きながらできるのが不安という面もあるので、子育てをしながら働く場の創設ができないか。また、子育てが終わった後の母親世代が、その後、再就職できる場所がないかといったような、いわゆる子育てしやすいだけでなく、結婚の不安を取り除くようなことができないかと考えました。

そうすると、やっぱり最終的な問題として暮らしの面が出るということになり、長野県は大変大きいので、やはり都市部と農村部とでやっぱり発展が違うということもあります。やっぱりバスがないことによる交通の問題やショッピングモールの創設による買い物環境の変化など、そういった問題にどう着手していけるかが問題となりました。

やはり交通の問題ということで、例えば郊外のほうに市営のバス、市営ではなくてもボランティア団体による無料のバスを走らせたりできないかといったような問題が出ましたが、やはりそういった問題、例えば行政が着手するといっても、地元住民や自治体からの許可がおりないとやはりそういったのは厳しいのではないかとということも、アイデアも出てもなかなか、民間と行政との協力も必要とされるのではないかとなくなりました。

こういった問題を踏まえた上で、どうしたら明るい未来になるのかという明るい未来を目標とした改善策を幾らか出させていただきました。やはり大きいのはやっぱり経済と人の面が大きいのではないかとということになりました。あるいは結婚するにしても、子育てするにしても、県内に残留するにしてもやはり働く場、働き方や雇用の関係が改善されない限りは、自分たち若者だって地域に残ろうとはあまり思わなかったりするし、やっぱり相手方が結婚するに至っても、非正規同士の結婚だとどうも、何かやっぱり、あと最後の一步が踏み出せないといったような課題があり、いわゆる出会いの機会があってもここまで行きついたので、最後、経済の問題ではじかれてしまうというのではやっぱり何か悲しいので、やっぱり経済の改革を行ってもらえないかですね。

あとは、また人の面としては、結婚も例えば市役所や村役場などで、小さな単位でもいいので婚活部とつくるなどして、村単位でそういった結婚や出会いの場を斡旋していけないか。先日、聞いたお話では、農村部の市町村では儲かる、儲からないという利益を行政が追求してしまったり、この部は廃止となってしまったということがあるので、そうではなく、長いスパンで見えていって、儲かる、儲からない以前の話として、そういうものをつくっていけないかという話にもなりました。

あとは、つなぐ事業ということで結婚や雇用だけではなく、結構、各地で問題となっている跡取り、後継者の問題がやっぱり明るみに出てくるので、そういった面での人々もつなげていけないか。例えば外部の人を呼び寄せたりしてもっとグローバルな視点で後継者を探していけないかという話も出ました。

そういった面で、あとは地域コミュニティの紹介や行政との協力などといった、協働していくことによって、例えば住民はこうしてほしいという願いをじかに言いやすい状態になり、行政も住民と話し合うことで、より求められているものが具体的になるんじゃないかと思いました。

【進行役 瀧内 貫 氏】

ありがとうございました。

Aグループで話し足りないことはありますか。Aグループはちょっと短めだったと思うんですね。まだ時間があるので、話し足りないこととかがもしあれば、ぜひお願いします。

【Aグループ】

改めまして、Aグループでございます。お時間をいただきましてありがとうございます。

せっかくお時間いただきましたので、さっき彼がすばらしい発表をしていただいたんですが、ちょっとその補足程度をお話させていただければと思っております。

テーマ、「創造的な学びの推進」というテーマを選びまして、まずどんな課題から入ったかというところなんですけれども。まず学習、特に高校生の彼からして、今までのいわゆるもう20~30年続いている既存の教育の枠組みがあまり変わっていないんじゃないかと。一方で、私、平成生まれなんですけれども、これからってITとよく言われていますが、学校では学習がITに沿ったものになっていないという課題がある。それに対して、同じグループにいた皆さんは人工知能をつくっていたり、ハッカソンというITのプロプログラミングのマラソン大会みたいなものを開催されている方がいたり、そのほかにも、皆さんは結構柔軟な、最近の技術を使ったようなビジネスだったり活動されていらっしゃる方がいたということで、IoTを活用したこういったものが実際にもう支援活動としてあるという、公共教育の場になっただけで、長野県にはこれだけすばらしい場所があるのに気づけました。では何が課題かなというふうに考えますと情報の発信と受信、これ、先ほどほかのグループの発表の中でもあったと思うんですが、場はあるのに、私も含めて全然知らない。かつ、それを受け取る側もどこで受け取ったらいいか全然わからないというのが課題としてある中で、ではどうやって周知していくんですかという中で、県がもし引っ張っていただければ、例えば長野県は非常に広いので、



どこに行くにしてもちょっと距離があると。明日イベントがあるとわかったところで、行くのにもちょっと時間がかかってしまうという中で、何かここを見れば、毎月の活動がわかるというようなポータルサイトだったりとか、そういったものなんかも用意できたらおもしろいんじゃないかなというふうに思いました。

あと、個人的な意見をちょっと申し上げさせていただきたいと、若干だけ思ったんですけれども。企業のリーダーの皆さんというのは本当にITを使っているのかなというところを若干思っていて、ITの活用という意見を述べる方が実際、例えば知事がインスタグラムをやってみるとか、そういった何か引っ張っていく方がITを使っていくのも面白いんじゃないかなんていう・・・

【長野県知事 阿部守一】

インスタグラム、やっていますよ。

見つけづらいと思いますけれども、ちゃんと教えますので。

【Aグループ】

ありがとうございます。まだ日本の知事で、インスタグラマーとかユーチューバーというので有名な方がいらっしゃるないので、ぜひ阿部知事に引っ張っていただきたいなと思いました。

【Aグループ】

すみません、ちょっとだけ補足なんですけれども、今日、発表してくださった高校生の彼から、学びたいことを学ぶ場所が高校だとなないという話をされていて、高校の決まった科目は勉強できるんだけど、例えばこういうことを勉強したい、学校の科目から外れたこういうことを勉強したいとなったときに、なかなか勉強できないと。そういうものに関して僕がちょっと思うのは、みんな勝手にこういうことを教えたいから人が来てください、こういうことを教えられるからぜひ学びに来てくださいという場が、市民大学みたいなものも含めてもっと活性化すると、学びの推進ということにつながるのかなと思いました。

【進行役 瀧内 貫 氏】

ありがとうございます。

【長野県知事 阿部守一】

私からいいですか。このインスタグラム、総合計画のこういう話し合いをずっとして、大学生とやったときに、もうフェイスブックなんかもう若者はやっていないから、そんなものをやるよりインスタグラムをやれと言われて、それでやっています。

### 3 知事とのディスカッション

【長野県知事 阿部守一】

いいですかちょっと。この次期総合計画の資料で私の思いをまず少し簡単にお話ししたいと思います。この次期総合5か年計画の政策の方向性を、今、総合計画審議会で検討しているのがこんな雰囲気ということ。最終的にこういうタイトルでこういう柱の分け方になるかというのはまだ決めたわけではないんですけども、これには私の思いも入っています。

今日は学びについて選んでいただいたグループが多かったんですけども。私の感覚は、知事の仕事をしているといろいろな分野、福祉だったり、医療だったり、教育だったり、環境だったり、産業だったり、いろいろな皆さんといろいろな話をさせていただくんですけども、多分、一番、今、重要なのは教育だと思っています。教育、人づくり。あまり変なことを言っただけいけないかもしれないけれども、やっぱり画一的な文部科学省の決めた学習指導要領に、肅々と準拠しているような教育で本当にいいのかなというふうに思っています。さっきも誰かが言っていたけれども、おかしいですよ。もうちょっと言うと、私は県知事じゃないですか。それで教育は教育委員会の所管になっているので、あまり直接的に言えない。もちろん、何というか、学習の中身をあまり、例えば政治的に右だ、左だみたいなことを触れさせるようなことがあってはいけないと私も思っているので、そういう意味では抑制的に対応しなければいけないと思っていますし、そういうところは教育委員会がしっかりやってもらったほうがいいと思いますけれども。

だけど、例えばさっきのICT、IoTをどう教育に取り込むかとか、あるいは学ぶべきことというのは、私は大きく変わっていると思っています。

やっぱり社会の要請とか社会のニーズに合わせて、学校の教える中身も変えていかなければいけないんだけど、極めて硬直的かなというのが私の正直な感覚で、まあ小中高大学とあって、結構やっぱり、学びの場としての学校と、社会とが少し隔絶してしまっているのかなというのが私の問題意識です。そういう意味では、学校現場の先生方も含めてもう一回ちょっと、長野県の教育をどうするかということを考えていかなければいけないというふうに思っています。

実はこの間、信州大学の教育学部の人たちと話しました。長野県の義務教育の学校の先生は信州大学出身の人が極めて多いので、今まで私は教育学部の人たちとあまり話したことがなかったですけども、ちょっと教育委員会も入れて一緒に考えましょうと。やっぱり先生方の行動とか発想がどうなっていくかによって子どもたちに対する影響力が相当変わってくるので、そういう意味では、教育はしっかり考えていかなければいけないと思っています。

ここ、『創造的な学びの推進』とっているのは単に学校教育だけではなくて、大人の我々も含めて、今、人生100年時代ですから、私が学校で教わったことは時代遅れになっているというふうに正直思っています。そういう意味では、シニア大学の方もいらっしゃるんですけども、長野県って、もう教育県ではないと思っている人が増えてしまっている残念な状況ですけども、私はまだ教養とか学ぶ意欲とか、そういうところは全国の中でも極めてすぐれた特色を持った県だと思っているので、そういうものを生かして、やっぱり学びの県ということをもう一回しっかり打ち出して、日本全国から見たときにも、自他共に認める『学びの県』にしていくということが、実は今の長野県にとって一番重要なのではないかなというふうに思っています。

そうした人づくりの面でもう一つだけ加えれば、さっきから産業は大事だねという話がありましたけれども、産業分野もこれからはやっぱり人だと思っています。もちろんいろいろなことで産業支援策もとらなければいけないと思いますけれども、今、有効求人倍率、長野県は1.0を超えています。先生の有効求人倍率も、まあずっと0.幾つぐらいなんですけれども、直近の数字だと1を上回るところが出ています。これももちろん業種、職種によって相当ばらつきがあるので、一概には論じられませんけれども、これから人口減少ですから確実に人手が足りません。あるいは人材が足りません。そうすると、やっぱり一人一人の能力がアップしていかないと、確実に生産性は落ちていくわけでありますので、そういう意味で、人生100年時代ということもあり、そして人口減少社会ということもあり、ここはやっぱり人づくりに相当力を入れていかなければいけないというのが私の問題意識です。

資料には、特に産業・経済、健康と安全、新しいライフスタイルと書いていますけれども、この学びは全部にかかわる話です。

それから健康と安全の確保も、一応、学びとはちょっと違うような感じもありますけれども、私は実は学びに関係していると思っています。長野県、私、いろいろなところで、長野県はどういう県かというときに必ず言うのは、長寿日本一ですというふうに言います。長寿日本一というのは何で達成できたかといったら、立派な病院がいっぱいあるわけじゃないですよ。これは一人一人の県民が健康に気をつけて暮らしている。あるいは保健指導員とか食生活改善推進員の人たちがいろいろなことを自分たちで勉強して、塩分を取りすぎてはいけないから減塩運動をやろう、味噌汁いっぱい具たくさん運動をやろうと、そうやって自分たちで学んで行動した結果が長寿県になっているわけでありますので、そういう意味で、実はこの健康とか安全の部分も、学びというのが極めて重要な要素だというふうに思っています。

それから、ライフスタイルも、産業もそうですけれども、ライフスタイルも大きく時代が変化して、技術革新が特に急速に行われている中で、そして世界がどんどんグローバル化して、本当に地球の裏側といつでもすぐコミュニケーションとれるような時代にあっては、やっぱり新しい技術を産業に、そして我々の暮らしの豊かさにどう積極的に取り込んでいくかということが、極めて重要だというふうに思っています。

そういう意味で、実は、例えば都会と比べたときに、長野県、特に農山村地域、中山間地域というのは、極めて今まで遅れた地域というふうな形で位置づけられていることが多かったと思いますけれども、実はITを使えば周回遅れのトップランナーにできるんじゃないかというのが私の問題意識であります。

ITを使えば、東京のオフィスと例えば上高地、すぐ会議ができますよね。別にあんなリスクで、人がごちゃごちゃしていて、通勤するとき人の背中を押さなければ乗っていけないような電車で何でみんな好き好んで乗っているんだというのは私の問題意識で、あんなところに人口が密集するのであったらもっと分散して、もっと自然環境の中で豊かな発想を持って、人間らしい生き方をしたほうが日本人全体も幸せになるし、そうしたことが長野県の発展にもつながってくるというふうに思っています。

そういう意味で、実はこのライフスタイルというのは、新しいライフスタイルを長野県からつくって発信していくことが、我々長野県にとっても望ましいし、ぜひそういうことを日本に広めたいと思っています。

最後に書いてある地域力・自治力というのは、先ほども、どこのグループでしたか、ちょっと言及してもらいましたが、長野県の強みは学ぶ意欲がある人が多いということと、あわせて、もう一つやっぱりこの地域力、自治力が高いということだというふうに思っています。

Cグループですね。地域も元気に限るとおっしゃいましたが、長野県は公民館活動、すごく活発で、公民館がいっぱいあります。あるいは美術館、博物館の数もいっぱいあります。あるいは、長野県のいろいろな分野で私が知事として感じているのは、さっきの長寿の話もそうですし、やっぱり地域の力が強いことで長野県の特徴が維持され、実は安全・安心な暮らしが守られているなというふうに感じることも多くあります。一番わかりやすい例が、白馬の奇跡と言われている神城断層地震のときに、あれだけ倒壊が南部でありましたけれども、死者はゼロ。メディアの人たちは「白馬の奇跡」というふうに名づけましたね。あれは何であんなことができたかといったら、みんな近所の人たちが、この家は誰と誰が住んでいて、寝るときはここら辺に寝ているんだというのを知っていたから、すぐ車のジャッキを持って行って救出できたわけで、あれ自衛隊が到着するまでみんな放っておかれたら、もっと大変なことになっていたかもしれないわけでありまして。

そういうことを考えると、特に都会では絶対できないですね。都会では隣に何人住んでいるかも、多分、よくわかっていないエリアがいっぱいあると思うんです。絶対、助けに行けないです。

それを考えると、やっぱりこの地域力、あるいは自分たちのことは極力、自分でやっていこうという自治力が強いこの長野県の特徴というのは、ぜひこれからもしっかり維持して、あるいはさらにもっと、今、少し弱まりつつあるので、もう一回、強化していくということが実は重要だろうなというふうに思っています。それがちょっと、今、ざっと、この資料に書かれている私の思いであります。

そういう中で、ちょっとA、B、C、D、Eの各グループの皆さんの提案いただいたことについて、お話をさせていただきたいと思います。

まずはAグループ、これ学びですね、まさに私が抽象的テーマだと思っている学びでありますけれども、問題意識は同じだと思います。問題意識は同じだと思っていますので、どうするんだということ、これまだ検討中ですが、私はやっぱり、さっきご提案あったように、地域にもっと学びの場をつくっていくということが実は重要だと思っています。

私、昔、横浜で副市長をやっていたんですが、横浜の福市長は当時4人いたんです。ちょっと担当が細かく分かれていて、私が担当していた一つが環境だったので、今もありますけれども横浜・エコ・スクールのようなのをつくったんですね、横浜・エコ・スクール。横浜・エコ・スクールというのはどういうやり方かということ、いろいろな人たちが講座をやっているわけじゃないですか、大学だったり市民団体だったり。そういうものをもっと緩やかに連携して、何月何日はここでこんな人とやる、こんな学びの場がありますよということを市主導ではなく発信してやっていこうという仕組みをつくったので、私はぜひ長野県においてもその環境問題に限らず、ぜひそういうネットワークづくり、それを何か総称して信州何とかスクールとか、そういうことができるというふうなように思っています。

それからもう一つは、学校をどうするかということは、さっき言ったように、私が直接、学校はこうあるべきだと、教育委員会に指示できない立場になっているので結構やりづらいんですけども、私が教育委員会に今、お願いしているのは見える化してほしいと、見える化。要は、こういう学校があったらいいねという学校のモデルがよくわからないわけです、何となく。これが未来の学校だという形にして、こういうことをやったらいいよねということを目視化すれば、それだったらうちの学校もこうしようじゃないかという人たちが増えていくのではというふうに思っています。

今、教育委員会が高校再編に絡んで学びの改革とかをやっていて、ちょっと私は教育委員会がやっている話なので口出しはあまりしていませんけれども。地域の人たちと話をしているのを新聞等で見たり、時々教育長と話をすると、結構、学校がなくなったり統合されたりすることに相当、地域の人たちは反対するわけですね。その思いも私はわかるんです。学校というのはやっぱり、何か単にそこに箱があるだけじゃなくて、やっぱりいろいろな人たちの思いが詰まっているので、そういう気持ちは大事にしなければいけないと思いますけれども。だけど、人口がどんどん減っていく中で、今までどおりの学校の形が残っていればそれでハッピーとは私はあまり思わないので、むしろ新しい形の学校を、この際、みんなでつくろうというふうな動きにならないのかなというのが私の気持ちです。そこはちょっといろいろなご意見があると思うので、また皆さんからご意見をいただければありがたいなというふうに思います。

それから、Bグループ。Bグループは経済の話で、一つは小学生に情報発信できるように教育しようということ、それから松本空港の国際化という具体的に2つ、大きくご提言いただきました。

前者のほうの話は今の教育等もございますけれども、私は今、全ての高校で、一つは信州学というのをやってもらうようにしました。これは何というか、どんどんグローバル化する中で、やっぱり世界の人たちとコミュニケーションをとって、長野県からも世界で活躍できる人材を出していくということが必要だと思っています。グローバル化すればするほど、自分の足もとを見つめ直すということが非常に重要だと私は思っています。

私、長野県内の中学生とかと話していると、実は長野県のことをよく知らない。長野県の子もたちが長野県のことをよく知らないで、大学はみんな東京へ行ってしまうと、これは危ないなというふうに思っています、そういう意味で、今、信州学をやったり地元、自分たちの足もとのことをしっかり学ぼうということによってやっています。

情報発信のことも大事ですけども、やっぱりこれから多分、読み書きそろばんと同じように、プログラミングが必要な時代になっているというふうに確信していますので、長野県も民間の人たちと協力してそういう取組を始めていますけれども、もう少し本格的に学校の中でそういうことを取り組んでいかなければいけないだろうなというふうに思っています。

この間、教育委員会とも総合教育懇談会の場でもそういうことを、専門家の人に来てもらって、学校におけるICT教育をどうするかというお話をしてもらいましたけれども、まだまだ非常に、そういう意味では初歩的なところにとどまっているというのが私の認識なので、さっき言ったような未来の学校みたいなところで、うんとそういうところ、尖った学びをやっていくようにしたいなというふうに思っています。

それから、松本空港の国際化、国際化に関する取組方針を県としてもつくって、今やり始めています。松本空港、やっぱりネックがあるのは、1,000メートル滑走路だけど、標高が高かったりするのでそれフルにできていない。2,000メートルの滑走路が海沿いにあるのとちょっとわけが違うので、ちょっと課題がいろいろあります。

今、航空機の性能が上がってきて就航可能性が高い機体が増えてきましたので、かなり松本空港も今以上に使える空港になってくるというふうに思っています。そういう意味で、今からいろいろなところと交渉していかなければいけないんですけども、これ地域の皆さんとも協力させていただいて、まずF D Aの路線はしっかり維持していかなければいけないと思いますし、今の福岡・札幌便は、相当、搭乗率が高いです。ぜひ皆さんにも福岡、札幌に行くときには松本空港で行ってほしいと思いますし、また、夏、1カ月間だけJ A Lが伊丹まで飛ばしてもらっていますけれども、今年は相当搭乗率がいいので、今度、J A Lへ行って、こんなに搭乗率が高いんだからもっとほかの期間も飛ばしてくれという話をしに行こうと思っています。

ただ、国際線については、今、国際チャーターをどんどん増やそうということで取り組んでおりまして、今年になってからもう既にロシア、台湾、それから松本空港に初めて韓国から大韓航空が就航しました。専門の室を設けて、今、長野県、積極的に取り組んでいますので、これまた、これ松本の周辺の皆さんには特にですけども、松本空港をぜひ使ってください。そしてチャーター便が飛ぶとき、こっちから出るツアーを募集するときには、ぜひ積極的に参加してほしいと思います。

私、中国とか台湾とか、海外へ行ってチャーター便をお願いしていますけれども、旅行会社の人たちの問題意識は、実は長野県は観光地だから、中国とか台湾とかでやれば結構、人が集まるわけです、人は集まる。問題はこっち側から行く人、問題はこちら側から行く人がいないと、片道で飛ばすとなかなか儲けが出ないということなので、ぜひ自分たちのほうには来てほしいけれども、俺らは行かないというのでは絶対交流にはなっていないですから、ぜひそこは協力してもらえれば、松本空港はもっとどんどん発展していく可能性があるというふうに思っています。

それからCグループ、『地域を元気に』ですよ。先ほどご提案いただいた中で、まず新しい専門委員という話は、私は実は何かいいなと思って伺っていました。これ、またちょっと、あまり問題発言になってしまうといけませんが、例えば、地域に何とか委員というのはいっぱいありますよね、ああいう地域のいろいろな役職、例えば県がかかわっているものでも、民生児童委員の皆さんとか、また市町村においてもいろいろな何とか委員というのはいっぱいあると思うんですけども、私はそろそろ本当はそういうのを一遍、たな卸して、本当に何が必要なのかということをもう一回、住民の目線で考えていったほうがいいんじゃないかなと思っています。どっちかという、何か上からこんな委員が必要だとかあんな委員が必要だとかやっていますよね。それ皆さんちょっといろいろ大変だけれどもしょうがないかと、結構引き受けていただいていることが多いと思います。

さっきのお話みたいに、行政が委嘱しているそういう何とか委員の皆さんというのは、結局、やっぱり我々行政の側としてこういう人たちが必要だという視点が結構強いと思います。それで、一遍、制度をつくってしまうと、なかなか変えられないのが行政の悪いところだと思います。

住民の皆さんというのは、多分、結構そこは問題意識を持っているはずだと私は思っています。何で俺たちこんな委員を順番にやらなければいけないのというのがありますよね、ありますよね。皆さんのほうから、そろそろこれ見直したほうがいいんじゃないかという声を何か出せないですかね。

その中で、さっきお話あったように、やっぱりいろいろな人が地域にかかわれるような仕組みを考えたほうが良いというふうに思っています。私は今、小諸に家をつくって、そこの自治会に入っています。さっきもお話あったように、私はどこで出番を考えようかという、あまりないです。あまりないというのは、私の回り、結構農家の人が多いんです。今度、みんなで草刈りをやるから出て来いよと言われて、私が出て行ってもあまり役にたたないんですね。正直、役に立たないわけですよ。でも、私、多分、もっと違うところで使ってもらえれば役に立てるかもしれないなと思うんですけども、やっぱりちょっと草を刈れとか、ここの道を一緒に砂利を運んできて整備しろと言われても、多分、お前はちょっとあまり役に立たないなといわれるほうだと思っています。

そういうことを考えると、人それぞれ得意分野があるので、どんな人にも多分、その地域で果たせる役割というのがあると思うんですよね。もっとそこにいる人たちの能力を見ながら活用できるような場面をつくってもらえると、もっと多くの人たちが地域に参画しやすくなるのかなというふうに思っていますので、そこはちょっと県が口出しするのではなくて、本当は市町村とか地域で考えてもらいたいなというふうに思っているところであります。

それから、あとDグループ。これ学びですよ、学び。私も多様性が大事だというふうに思っています。さっき6・3・3・4でいいかという話もありましたし、私自身、自分は実は高校を途中で変わったことがあって高校は嫌だったんですよ、正直言って。

何か世の中の的には偏差値で序列化して、ここがいい学校みたいな話にされてしまうことが結構多いと思いますけれども、私にそういう経験があるので、そういう評価軸じゃないほうが良いと思っています。何というか、いい学校、悪い学校って何か画一的に線引きするのではなくて、やっぱりその子に合った学校、その子の能力を伸ばせる、その子の能力が活かせる。そうした学校が実はその子にとってのいい学校なんだろうなというふうに思っています。

だから、そういう意味ではいろいろな能力を持った子どもたちがいるわけですから、私は必然的に、やっぱり学校は多様化しなければいけないだろうというふうに思っています。そうすると、必然的に何か文部科学省が日本全国津々浦々まで学習指導要領で、同じことをベースに教育しているというのはやっぱり矛盾だというのが、いつもそこに戻ってきてしまうんですけども、私の問題意識であります。

そういう意味でぜひ何かちょっと、その教育を変えていかなければいけないんですけども、さっきから言っているように、私が教育行政に直接口出しすると、権限もないのに何を言っているんだというふうに言う人も中にはいらっしゃるんで、ぜひこれ県民の皆さんから声をもっと挙げてもらったほうが良いなと。教育については、僕は経済界の皆さんには年中言っているんですけども、実は人材を必要としている経済界の皆さんがもっと教育について語ってくれないと、教育界だけの教育論理ではいけないんじゃないかという問題提起をしています。ぜひ、これはぜひ県民の皆さんからも、教育はこ

うあるべきじゃないかということをもっとどんどん出してもらったほうがいいなというふうに思っています。

それから、あと公民館の活用の話は我々もしっかりと考えていきたいと思っています。さっき言ったように、長野県の特徴は、強みは幾つかあって、やっぱりその中での地域力、そして特に公民館活動が盛んだということが非常に重要だと思っています。

今、ちょっと公民館関係とか、あるいは図書館関係とか、これまで以上に長野県としては体制強化してどうしていくか検討していますので、ぜひそこは、これから我々も発信を、取組を発信していきますので、ぜひ呼応して一緒に協力して取り組んでもらえればありがたいなというふうに思います。

あと、お年寄りと子どもをつなげなければいけないという問題意識は、私も全くそのとおりだと思っています。実は何か、今の福祉施策とか行政施策は全部縦割り別になっているので、これ地域の場でやっぱり、高齢者だろうが障がい者だろうが、子どもだろうが女性だろうが外国人であろうが、みんな一緒に集って一緒に何か学び合う、一緒に取り組んでいくという場が長野県の中でどんどんできてくるようにしていきたいなというふうに思っています。

特に、私、今、子どもと高齢者だけじゃなくて、今ほど世代間の違いが大きい時代というのはないんじゃないかと。さっきのインスタグラム、私もどっちかという、多分もう、今まで生きてきた人生より死ぬまでの期間のほうが近くなってきたかなという年代ですけれども。やっぱり、インスタグラムのほうがいと若者に言われるまでは、ずっとフェイスブックばかり使っていたので。いろいろなことも、例えばインターネット関係なんかは私が教えるのではなくてむしろ子どもから教えられる、そういう時代になっています。違った経験とか技能を持っているということは、実は教え合える可能性があるわけでありますので、お年寄りは例えばきのことりとか漬物のつくり方とかそういうものを若い人に教えてもらって、逆に、若い人たちはお年寄りの皆さんに、今、インスタグラムってこうやってやるんだよ、楽しいでしょうみたいなことを教え合うとか。やっぱり放っておくと世代別になるところを、ぜひ逆に学び合うこと、教え合うことによって世代間の協働の場をつくれなかなというのが、私の、さっきのお話を聞いていて思ったことであります。

それから最後。結婚の話はしっかり、今、県としても取り組んでいます。ひと昔前までは、行政が結婚支援をするのはおかしいと私も思っていました、実は。だけど、もうそんなことを言っていられない時代になっているので、長野県も婚活支援センターをつくって結婚支援に一生懸命取り組んでいます。

これからはちゃんとやっていきたいと思えますし、やっぱり、さっき雇用の話がありましたけれども、これから人手不足になってくるので、だんだん雇用環境は改善の方向ではあると思っています。ただ、企業の側とすると、やっぱり安定的な収益確保ができなければ、どうしても正規雇用でなくて非正規雇用のウエイトを高めてしまう。長野県の場合、求人に占める非正規の割合が、ほかの県と比べると相対的に高い状況ではあるので、そこら辺はちょっと経済界の皆さんと少し真摯に話し合いをしなければいけないだろうなど。自分の会社がよければいいという発想でなくて、長野県の会社は、どっちかという社会のことまで考えてくれている会社が私は比較的多いと思っていますので、ぜひそういうところをちょっと共有をしていきたいというふうに思います。



それから交通、私、これからの地域の問題の中で重要だと思っていることが、もちろん教育はちょっと全体にかかるんですけども、この交通は実はすごく重要な話だと思っています。私の小諸にある家も非常に不便な場所にありまして、自分で運転して行けるときはいいけれども、この後、年取って車を運転できなかつたり、あるいは免許を返納したらどうやって生きていけるかなというふうに、実は真剣に考えています。そういう意味では、さっきお話があったような、ボランティアでもっとバスを走らせてもらうとか、そういうことはしっかり考えていく必要があると思っています。

今、そういう検討の場をつくって、バス・タクシーとかいろいろな人たちも入ってもらって検討していますけれども、例えば、ちょっと私のジャストアイデアみたいな話ですけども、タクシーがあるのに、タクシーが何かいつも決まった場所にしかいないのはもったいないなと実は思っていて、タクシーが例えば、このルートとこのルートは毎日回っていますと。スマホで確認すれば回っている場所がわかって、では何時にこちら辺で乗せてくれと言えば、すぐ乗せてもらって、しかも、みんなの乗り合いですからもっと、バス代ぐらいに安く乗せてもらえるような仕組みをつくるとか、これITが進めば、どんどん交通の分野ももっと合理的な仕組みができるんじゃないかと思っていますので、ぜひそういうことは考えていきたいなというふうに思っています。

ちょっと長く話してすみません。さっき新しいライフスタイルのところ、グループ名がジャスティスと書いてもらっているじゃないですか。私、実はあれ気になっているので、もし何かそこだけ何か皆さんの思いがあれば聞かせてもらいたいなということで、ちょっと一遍、閉めたいと思います。ありがとうございました。

【進行役 瀧内 貫 氏】

この後、少し皆さんと知事のやり取りを進めていきたいなというふうに思うんですけども、突破口としてちょっとすみません、ジャスティス。

【長野県知事 阿部守一】

普通、ジャスティスというのはなかなか出てこないですね。

【参加者】

そうですね。何が今、一番必要なのかなというのをやっぱり自分目線で考えていったときに、こういうものが必要かと思ったりして、何というか、あまりそこまで、そんな大したものじゃないけれども、自分たちが住民たちの先導をとって、もっと上のほうに言えるようにという意味も込めて、まあジャスティスというような、社会正義。

【長野県知事 阿部守一】

社会正義ですよ。実は、何というか、日本は、今までは経済的な豊かさを目指して、みんなで協力し合って、戦後の焼け野原から立ち上がって、高度経済成長を実現して発展してきた国だと思いますけれども。その次の目標が立てられてないんだらうと私は思っていて、いまさら、いまさらなんですけど、生きていく上での、もちろん生活の糧は僕は必要だと思っているんですけども、では、経済的な豊かさだけで本当にいい社会になるかといったら、多分、そんなことではないんだと私は思っていて、次に何を指す

のということをやっぱりしっかり考えなければいけないんじゃないかなと。

私はこのジャスティスというのは、本当は次に長野県なり日本社会が、公正さとか正義とか、結構、その価値観が非常に分かれているので意味づけするのは難しいことであるんですけども、何かもう少ししっかり考えていかなければいけない時代なんじゃないかなというふうに思っていて、実はそのジャスティスに反応したんですよ。

私の頭の中に一番しっかり残っているジャスティスというふうに言った人は、ノーベル賞をとられたあのワンガリ・マータイさんって知っていますか、アフリカで植林した女性が「MOTTAINAI」、「もったいない」という日本語を広めようとした。

あの人が、私、昔、横浜でアフリカ開発会議というのを開催したときに、私も横浜市として出ていて、向かいにマータイさんが座られていて、アフリカの将来を語り合う会議だったんですけども、ワンガリ・マータイさんが立ち上がって力説されていたのが、カーボン・ジャスティスと言っていたんです、カーボン・ジャスティス、炭素正義。ちょうど地球温暖化の話を議論していたので、私たち、私たちというのはアフリカの人たちです。気候変動ですごく影響をこうむっていると。要は干ばつに。機構変動で干ばつになったりして。それに伴って、そういったことが地域間の紛争の原因にもなっていると。翻って、いっぱい温室効果ガスを排出している先進国は、そういうことをわかっているのかと。これ国同士で見たときに、これが正義といえるのか、公正といえるのかということをしきりに力説されていて、非常に私はそのことが頭に残っています。

実は今、日本の国内でも子どもの貧困の問題を初めとして結構、何というか、公正さとか正義というのは一体何ということ、実は深く考えなければいけない時代に来ているんじゃないかなというふうに思っています。

そういう意味で、もう一つ、何というか、経済を発展させて暮らしを豊かにするという目標が、一定程度達成された後の社会において何を目標にするかというのは、ぜひちょっと、本当は皆さんと一緒に考えたいなということをやっとつけ加えさせていたきたいと思います。どうもありがとうございます。

【進行役 瀧内 貫 氏】

せっかくの機会ということで、あと大体2、3ぐらいの話ができればという時間があるんですけども。では順番に行きましょう。

【参加者】

大学の件なんです。私は、どちらかというと非常に遅いかと。あと、学部の構成というものがちょっとよくわからないんですが、どうして、ああいうような学部編成になったのかをちょっとお教えいただきたいと思いますが。

【長野県知事 阿部守一】

県立大学ですね。大学の問題については私も遅いと思っています。大体、短期大学を持っていた県は、もっと早く4年制大学、どうするかという議論を始めていたんですけども、長野県は遅いと思っています。

私はさっきから学びのことを言っていますが、これからの社会の発展の基礎は学びだと思っていますし、あと、例えば海外へ行って地域の産業が発展している、ある

いは非常に暮らしを、いい形のライフスタイルを実現している町というのは、大体、基本的に大学がある。大学を核にして産業界とつながったり、大学の先生方自体が、いろいろなことをつなぐ存在であったりするわけで、そういう意味では大学というのは、そこで学生が学ぶというのももちろん重要ですけども、それだけじゃなくて産学官連携の拠点でもあり、そうした大学の先生自体がいろいろなところでネットワークをつくってもらおうという意味での、非常に重要な意味を持っていると思うんです。

そうしたときに新しい大学をどうするかというので、一番、安易なやり方は短大の今持っている学部をそのまま4年制にするという選択肢なんです。それが実はもっとも抵抗が少ないんです。なぜかという、やめさせる先生が出ない。今回、申しわけないけれども、やめてもらう先生、出させてもらいました、申しわけないんですけども。県民のためだと思って、あまりそういうところは報道されていないですけども。

長野県を考えたときに、さっきのつなぐというお話がありましたけれども、そういうことを考えると、やっぱりマネジメントができる人材が非常に重要だと思っています。もちろん、個々の分野の専門家を育てる必要性というのもあるんですけども、さっき話が出たように、長野県っていっぱい資源があります。いろいろな人たちが一生懸命前向きな取組をやっています。だけど何が足りないかと私が見たときにやっぱりつなげる人、つなぐ人材が圧倒的に少ないと思っています。

そういう意味でグローバルマネジメント学部というのは、そのつなげる人材をつくりたいというふうに思っていて、あそこのコースはグローバルビジネスと、それから公共経営、さらにもう一つ起業、自分でビジネスを起こす。そういうコースをつくっていて、なおかつソーシャル・イノベーション創出センターというのを置きますので、地域でイノベーションを、いろいろな人とつながって起こしてもらおう拠点として育てていこうと思っています。そういう意味では統合マネジメントを一つつくりました。

それからもう一つ、健康発達学部ですけども、こっちは短大のやってきたことを引き継いでいる部分であります。ただ、短大をそのまま引き継ぐのではなくて、この健康発達は実は管理栄養士を養成する課程と、それから子ども学科、保育園の先生たちを養成する部門と両方ありますけれども、一つは、その管理栄養士のほうはやっぱり長野県、健康長寿県ですので、そういう意味で食と健康って密接な関連があり、なおかつ長野県は食品産業が盛んな県です。味噌、しょうゆを初めとして。そういうことを考えると、実は管理栄養士もただ単に病院で管理栄養士をやるだけじゃなくて、企業とかに入ってもらってビジネスをやることも視野に入れた、だから管理栄養士課程の人たちも全員、海外へ行かせますし、1年生は全員寮にやらせますし、小人数教育で英語の勉強もしっかりさせますので、そういう人材を育てること。

それからこども学科のほうは、今、例えば発達障がいの子もたちが増えていってます。この間も信大の先生たちと話しましたけれども、文部科学省が大学の課程ってこうだと決めているので、教育課程でほとんど障がい者とか発達支援のことを学ばせていない。今度のこども学科では、むしろそういうところをしっかりと教えたり、あるいは長野県の特徴である、今、信州型自然保育、森のようちえんの認定制度をつくりましたけれども、そういう自然学習、そういうことができるような人材をつくらうということを行っていますので、相当、こっちは健康発達学部は特色ある学部になります。

そういう意味で、何というか、表面だけ見ると、何でこれという感じがありますけれ

ども、今、言ったような形で考えていますので、まず最初に、できるだけ志が高い学生に集まってもらえればしっかり回っていくと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

【進行役 瀧内 貫 氏】

あとお二人なんですけれども、時間の関係で、3分ぐらいずつでやりとりをお願いします。

【参加者】

今年からハッカソンを始めました。ハッカソンを始めたいきっかけというのはI O Tが世間に堂々と認知されてきたということと、あとそれを使って新しい産業が生まれてきたということなので、それをできる人材をもっと増やしたいなと、長野県でそういうのをやれる人間を増やしたいということでやり始めました。それをきっかけに、今、ちょっとプログラミング教育をやっている人たちと連携して、そういう場づくりを始めようとしております。

ですので、そういったのをサポートしてくれるような施策というのがほしいなということと、あと情報発信、今日のこのタウンミーティングも結構、知らない人が多いということで、できれば県のホームページ、スマホで見れる形になっていないので、それをまずやってもらいたいのと、ソーシャルメディアにシェアができるようなボタンを用意してもらいたいと。あと、そういったのを統括できるようなC I Oの、そういうようなポストを用意して、それが確実にできる人を登用してもらいたい。

あと、教育の分野ですけれども、そうですね、そういう新しい教育だとかに熱心な方々を教育長にぜひしてもらいたいです。以上です。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございました。プログラミング教育とかハッカソンとか、何かそういう場を県もどんどんつくりたいし、応援したいなと思っています。場合によったら今度、総合計画をつくれれば、元気づくり支援金なんかのメニューにそういう観点を入れていくということもあると思いますので、ちょっとまたよく考えたいと思いますし、それに関連していえば、私は今日のようなこういう場所がいいなと思っていますけれども、こういう場所をもっと県内に増やしたいなと。これ行政がつくるのではなくて、民間の人たちがもっとそういう場をつくってもらって、同時にそのいろいろなものづくりができるとか、長野県はものづくり産業が盛んな県でもあるし、子どもたちのクリエイティビティを高める上では、何かそこに集って学ぶと同時に何かそこでものづくりできるという、そういうことを何か考えられないのかなというふうに強く思っています。どうぞ。

【参加者】

工科短大、南信の工科短大が、情報系がないというのが残念と思っております。

【長野県知事 阿部守一】

工科短大とか技専校も、もう少し時代の要請に合った形にしていく必要があるんじゃない

ないかというふうに思っていますので、そこはちょっと今後の課題にさせていただきます。

まあ、やっぱり冒頭言ったように、県だけではなかなかきめ細かくできません、正直言って。ぜひ地域の皆さんがやる気を持って取り組んでもらうところとネットワークを組ませてもらって、ご提案あったように一緒にやっていくということも大事だと思います。ただ館長とか教育長の話は人事の話なので、私がいかにこうだあだということとは言えないんです。ただ、原山教育長は、相当、今、頑張っていてもらっていますし、情報化担当部長というのも今、置いているんですよ。私は少し、情報科学分野についての体制のあり方を今後どうするか、しっかり考えなければいけないというふうに思っていますので、しっかりご意見として承っておきたいと思います。ありがとうございます。

【進行役 瀧内 貴 氏】

では最後に。

【参加者】

すみません、本日はありがとうございました。正義と、先ほどお話があったので、1点、共有だけ。

やなせたかしさんとかがそうですけれども、アンパンマンの作者の方なんですけれども、私、正義で参考にしているのがそれなので、もしよろしければ調べてみていただければなんて思っております。困っている人がいたら、お腹がすいている人がいたら自分の顔を提供して助けてあげることができる人が、本当の正義ができる人だよみたいなことを言っています。

先ほど長野県をよくしていくためにマネジメントできる方が必要というお話があったと思うんですけれども、若干、私、マネジメントよりも、本当はリーダーシップじゃないかなと思っておりまして、アンパンマンはそうなんですけれども、献身の心を持って何かを変えたら捨て身になれる。絶対にリーダーって傷つくと思うんですよ。多分、県知事もぼろぼろになりながら、働かれていますんじゃないかなんていうふうに・・・

【長野県知事 阿部守一】

はい、たたかれまくっています。

【参加者】

そうですね。ただ、それを押し返してでも何かやっ払いこうという決断力と実行力と心の強さ、そういった若者が増えていくべきじゃないかなと僕は思っております。

本当は僕も長野県に残ってできればよかったんですけども、僕、もともと千葉出身でこっちへ来て3年になって、またちょっと来月戻ってしまうので、今日はせっかくなんで・・・本当に、こんな素敵な知事だったら、私、残って一緒に働かせていただきたいと思うぐらい本当に素敵だなと思って。

ぜひ、知事が教鞭をとってではないですけども、ぜひ何かそういう仕組みを、先ほど大学というお話もあったと思うんですけども、ご自信でやっ払いられるつもりはないのかなというのと、あともう1個、長野県に来てちょっと思ったのは、少し競争が足

りないというふうに感じております。私、東京に戻ったらものすごい野獣たちと戦っていく形になるんですけども、その中で勝ち抜いてやろうと、勝ち抜くとはちょっと違いますけれども、共存しつつ自分も成長していこうと思っております。

その中でこう、やっぱり東京という視点か、もしくは海外という視点でもいいんですけども、よりこう、県内で完結できてしまうパワーがある県とはいえ、やっぱり外とのかかわりの中でより良い、いい意味での競争、成長、やっぱりそういったところを目指していくべきではないかと、ちょっと感じたところがあったので、知事にちょっとご意見をお伺いできればななんて思っております。

#### 【長野県知事 阿部守一】

そうですね。まずリーダーシップのとれる人材が重要だというのは私もそうだと思います。実は県立大学の理念にもリーダー輩出を入れているんですよ。グローバル発信と、それから地域イノベーションを起こしますということとリーダー輩出と、これ3つが新しい県立大学の理念になっていて、やっぱり地域を引っ張っていける人材を県としてだけだけつくれるかということが勝負だなというふうに思っています。

私自身がもっと対話をしていきたいというふうに正直思っていますが、どうしてもいろいろなところの分野で時間をとられてしまうので、なかなか私の思いを直接、県民の皆さんにお伝えして、こういう考え方で長野県を引っ張っていきませんかという投げかけをさせていただく機会は結構限定されてしまっていると思います。

ぜひ、おっしゃっていただいたように、私がやらなければいけないことというのは、教育だとか、福祉だとか、産業だとか、それぞれの政策をどうするかということもありますが、長野県の職員が、私が言わなくてもまず主体的に問題意識を持って動いてもらう、そして県民の皆さんが行政をうまく使ってもらいながら、自分たちの期待する、希望する社会をどうすればつくれるかということから自ら考えて行動してもらうこと、そういうことに持っていくのが私の究極の役割なんだろうなというふうに思っていますので、これからもその思いは忘れずに頑張っていきたいと思っております。ぜひまた機会があったら長野県に戻って頑張ってもらいたいと思っております。ありがとうございます。

#### 【参加者】

ありがとうございます。

#### 【進行役 瀧内 貫 氏】

ありがとうございました。時間に限りがありますので、これで閉めていく形にしたいと思うんですけども、少しまとめという時間をいただいております、というか、お願いみたいな形なんですけども、今回、おそらく人にかかわる部分のお話が非常に多かったんだなと思います。産業にしても、ライフスタイルにしても、さまざま医療の問題にしても、いずれにしても最終的には人であるという話だったなというふうに思っております、今回、お話になっていた学びというものが、おそらく問題意識を持たれている地域文化だったりとか、あとは医療・福祉の問題だったりとか、世代間交流みたいなものを解決していく、一つの大きなきっかけになるんじゃないかなというふうに思っています。

今回、せっかくこういった機会に集まっていたいただいているので、この後30分程度はこ

の場所を使っただけでもかまいませんので、この場に集まっていたいただいた方々が、ぜひ名刺交換をしていただいたり、フェイスブックやインスタグラムをフォローし合っていたりとかして、つながりをぜひつくっていただいて、いい一つの機会にしていだければなというふうに思っております。

今日は、行政への陳情の話ではなくて、行政と一緒に何をやっていくかという話だったんじゃないかなと思いますし、今の行政、何でもやってくれる行政という形は、実は長い歴史を見るとたった100年の話なんですよね。それまでは道も自分たちでつくってききましたし、何か問題があったら自分たちで解決してきたというのが形になっていたと思うので、そういった機運というか、きっかけにしていだければなというふうに、コーディネーターをしていて思いました。ありがとうございます。

では最後に、知事、最後に総括をお願いします。

#### 4 知事総括コメント

【長野県知事 阿部守一】

どうもありがとうございました。

瀧内さんにまとめていただいたので、私はあまり補足することはないんですけれども、私は県知事として仕事をしていますけれども、県ができることというのは本当に限られていると思っています。一人のお子さんが例えば大学に行けなくてなかなか悩んでいるなど、奨学金制度もちょっとだけつくりましたけれども、それだけで物事がたちどころに改善するわけではなくて、やっぱり県民の皆さんお一人お一人が問題意識を持って行動してもらうことによって、社会が大きく変わってくるんだと思います。

そういう意味で、私はもちろん県知事でありますから、私でなければやれないことももちろんたくさんあります。そこについては、皆さんのご意見をしっかり承って着実に進めていきたいと思っています。けれども、逆に私ではできないこと、さっきの教育どうするかとか、さっき皆さんにもっと教育に提案してくださいと言いましたけれども、そういうことも山ほどありますので、そういう部分はぜひお一人お一人が自分事として捉えていただいて、いろいろな場面で発言してもらったりいろいろな場面でいろいろな人を巻き込んでもらったりしていくことによって、さっきの総合計画の骨子に書いた、長野県の地域力、自治力、これが高まってくるんだらうというふうに思っています。

ぜひ行政、県政は県民の皆様方と協働を基本姿勢としていきたいと思っておりますし、地域力、自治力が高まるように、我々も環境をつくっていきますので、ぜひそれに皆さん呼応して取り組んでいただきたいということをお願いして、今日のまとめとさせていただきます。今日は大変ありがとうございました。

(以上)